

プラネット・ナイン



上川北部医師会
なよろ眼科

いの うえ りょう
井 上 玲

皆さんは、私たちの住む太陽系の惑星をどのように習ったでしょうか？

私は、小学校か中学校の頃に「すいきんちかもくどってんかいめい」と習った覚えがあり、太陽から近い順に「水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星」と覚えていたが、最後の2つは公転軌道の関係でその後、冥王星、海王星の順番になったとかならないとかといううろ覚えの知識だった。

それがいつのころからか、冥王星は惑星じゃないという話があり、準惑星になったとかならないとかという話を聞いたが何のことやらという状態だった。

今回、近隣の「きたすばる天文台」に行く機会があり、プラネタリアムの題名が「プラネット・ナイン」だった。

冥王星はかつては太陽系の最果ての第九惑星だったが、1992年頃から変わったという。

海王星の外側に、「エッジワース・カイパーベルト」と呼ばれる多数の天体群が見つかったのだという。そこには冥王星に似た大きさの「エリス」があり、ほかに「ハウメア」「マケマケ」など私には聞きなれないものがいろいろとあり、冥王星はこれら4つの準惑星の1つに過ぎなくなったらしい。

だが、それらの天体群の軌道の特異性から、第九惑星の存在が理論的に考えられており、世界中の天文学者が探しているようだ。なんとも夢のある話である。

そして、今年の6月は惑星と七曜が一気に観望できるという。

明け方の東の空に惑星たちが勢揃いし、地球から見られるすべての惑星を一晩で見られる珍しい機会だという。さらに6月25日ごろには月も惑星の近くに位置するようになり、曜日由来になっている天体（太陽、月、火星、水星、木星、金星、土星の七曜）も一気に観望できるという。もちろん、望遠鏡がないと見えない天体もあるが、望遠鏡を持っている方や近くに天文台がある方は必見である。

プラネタリアムで見ると確かに明け方の東の空低くにはほぼ直線上に惑星と七曜が勢揃いである。残念ながら、既に「きたすばる天文台」の観望会の予約は満員だそうで、ネット中継で見るとしかなさそうだ。

ちなみに、今回のようなことは1982年以来40年ぶり、次に見られるのは1010年後の3032年だそうで、生きていうちに見ることは無理そうである。

今世紀、最初で最後の「惑星×七曜一気見」観望のチャンスなのに、今のところ天気予報はあまりよくない。それでも何とか晴れてほしいものだ。

スキマ時間で スキマを埋める



羊蹄医師会
倶知安厚生病院

すず き さとし
鈴 木 哲

最近、スキマ時間の埋め方が上手になっている。

昨年3人目の子供が生まれ、子育てでなかなかそれ以外の時間が作れないように感じていたが、家事をしながらワイヤレスイヤホン（安くてめっちゃ便利！）でVoicyというネットラジオを聴いたり、子供が眠った後、添い寝しながらKindleで本を読んだり（目には悪い・・・）と、日々わずかな時間を有効に生かしている。

高校時代はよく読書をしていた。養老孟司や茂木健一郎などが流行った時で新書が出れば欠かさず読んでいた。大学になり医学の勉強と部活動で小さいキャパシティはいっぱいになり、初期～後期研修は医学以外の勉強はする余裕がなかった。最近さらさら時間的余裕はないはずだが、日々コツコツ各種メディアを使って、知識・情報収集を営んでいる。

Voicyは経済学が中心だが、他にも無料で茂木健一郎の話も聞けるし、パーソナリティの中には医者もいて、診療所経営学や精神科学の話などもあり、医学的にも非常に勉強になる。

Kindleでは最近、哲学や世界史、物理学に関することを学んでいる。受験勉強の弊害で高校時代にサボった分野でさっぱりわからない。ただ、過去の哲学者が考えたことが量子力学によって証明される歴史は、過去の哲人の凄みを感じる。

医学は自然科学から人間を理解する営みだと思うことがある。人類はかなりの投資をこの分野に行っている。医者をして、医学はまだまだわからないことばかりだが、医学だけを勉強していてもだめで、いわゆる文系的な視点から人間を理解するという営みも必要だと思う。そしてそれは自然科学の理解を先行しているかもしれない。

医師8年目、医学の勉強、子育てで手一杯だが、スキマ時間で文理のスキマも埋めていきたい。